



2019年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社フーバーブレイン
代表者名 代表取締役社長 興水 英行
(コード：3927 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 石井 雅之
(TEL. 03-5210-3061)

2019年3月期通期業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の業績予想は開示しておりませんが、当該期通期業績と前期実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (2018年3月期)	百万円 678	百万円 △15	百万円 △10	百万円 13	円 銭 3 41
当期実績 (B) (2019年3月期)	909	16	21	23	5 49
増減額 (B - A)	230	32	32	9	
増減率 (%)	34.0	—	—	65.6	

2. 差異の理由

(1) 売上高

2018年6月22日付公表「定時株主総会における決議及び新役員体制に関するお知らせ」のとおり、同日付で新経営体制に移行し、「情報の保護・管理」から「情報の活用」及び「セキュリティ+α」への事業方針の転換を図りました。加えて、持続的な成長を実現するための組織体制の再構築並びに面開拓の営業戦略の一環として新潟及び福岡において新規営業拠点を開設した結果、一定の成果が見られ、業務管理サーバー及びWebデータベース関連の売上高が前期より大幅に増加しました。

(2) 各利益

上記(1)のとおり、売上高増加に伴う売上総利益の増加に加え、持続的な成長を実現するために、組織体制の強化を掲げ取り組んだ結果、人件費関連費用の増加はあったものの、経営資源の効率化による売上高に対する販売費及び一般管理費の比率低下が奏功し、営業利益及び経常利益ともに黒字化を達成しました。

一方、本社移転に伴い、一時的に本社移転費用を計上することになったこと及び前期において役員退職慰労引当金戻入額を特別利益として計上していたことから、当期純利益は営業利益及び経常利益よりも前期実績値比の増額幅が小さくなっております。

以上